

ごあいさつ



芳川豊史教授

「着任半年を経て、2020年度への思い」

皆さま、こんにちは。

2019年9月に、名古屋大学に着任してから早7か月が経ちました。月日が経つのは本当に早く、私自身、今年とうとう40代最後の年となります。さて、この1年間は、本当に大きな変革の一年でした。少し振り返ってみたいと思います。

昨年6月の名古屋大学の第二代教授としての選考後、着任までの3か月弱の期間は、京都大学での仕事の引き継ぎと、名古屋大学での新体制の準備に追われました。着任までの期間に、兄弟教室である心臓外科学講座の前教授の上田裕一先生、現教授の碓氷章彦先生、そして呼吸器外科学教室初代教授の横井香平先生のお力添えがあり、関連病院をはじめ、現教室員の先生方が、まさしく「One Team」となって、新しいチームの船出を支えてくださいました。2020年1月11日に行われた[就任祝賀会](#)では、本当に多くの方々に祝っていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

本教室は、[20以上の関連病院](#)と約60名の現役の教室員を配し、呼吸器外科としては本邦でも有数の教室であります。本教室を主宰する立場につけることは光栄であるとともに、その責任は甚大であります。まだまだ私自身が教室員や周りの方々からしていただくことのほうが多く、自分が皆さんにした結果が目に見える形になるには時間がかかると存じますが、地道に歩みを進めていきたいと思っています。

嬉しいことに、着任後半年の間に、5人の若手医師の入局が決まりました。「人が最大の力」を合言葉に、より多くの仲間を増やすことができるようにしたいと思います。

私は、華僑3世という自らの出自からも、多様性を認めるチーム作りをしていきたいと考えております。つまり、性別、国籍、出身大学、経歴などにとらわれず、いろいろな考えを持った若手が、広く呼吸器外科学を学びたいという思いで集まり、お互いを認め合い、尊重しあえるようなチームを作りたいと考えております。外科領域では難しい課題ですが、働き方改革に合わせたチーム作りにも積極的に取り組みたいと考えております。

さて、私が教育を受けた京都大学呼吸器外科教室と、現在在籍する名古屋大学呼吸器外科教室は、いろいろな面で大きく異なります。例えば、名大病院と京大病院を比較しても、外来から入院までの患者の流れ、主治医の当て方、手術予定の組み方、手術器具、使用する糸などなど。しかしながら、両者ともに、十分な歴史や経験、そして理論の裏付けがあり、私にとっては、9月からの名古屋での外科医としての生活は、すべてが学ぶべきものであり、自分が外科医としてだけでなく、ひとりの人として、さらに成長していくことを日々感じております。

また、臨床面での最大の違いは、名古屋大学が現時点で肺移植実施施設でないため、慢性呼吸不全の患者さんを診る機会が著しく減ったことです。しかしながら、今年になってから3か月間に3人の肺移植適応患者さんを名大病院の他科から紹介いただき、院外からの問い合わせも入れますと、肺移植を忘れずに診療できる環境は維持できております。一方、胸膜中皮腫は、名古屋大学が東海・中部地区の中心的な施設であり、定期的に症例があり、スタッフも非常に慣れております。胸腔鏡手術では、見上げ式、対面式の両方の方法が自在に行われております。ロボット手術の歴史も長く、現在、月に6例以上は定期的に行われており、先日、3人目のプロクターが名大病院から生まれました。また、気管分岐部腫瘍に対する拡大手術もチームが一丸となって安全に行うことができました。このように、全体としては、この数年間、総手術数は400例弱、[転移性肺腫瘍を含む肺悪性腫瘍の手術症例は、年間300例弱を維持しております](#)。全ての科が一流で活発な名大病院で、呼吸器外科のみが手術数を増やすことは難しいですが、現在の手術症例数を維持したうえで、呼吸器外科領域をより幅広く網羅し、難易度が高い手術を、より多く、かつ、より安全に行えるチーム作りを行いたいと考えております。

名大病院の責務として、名古屋から世界に発信できるような医療を、と高い志を持つことは重要ですが、一方、名古屋、愛知、そして、東海中部地域という地元の需要に答えた医療を展開することにも、より一層の努力を行いたいと考えております。具体的には、この4月から、呼吸器外科の新患患者に対し、毎日対応できる体制(月曜日・水曜日も午後になります)にし、かつ、助教以上のスタッフは全員、外来診療を行うなど、全方面から患者対応を行うことにしました。患者さんを中心とした真の意味での病診連携強化につながるものと確信しております。

この4月には、新たに2名の大学院生を迎えます。これまでに、私は、20名を超える大学院生を直接指導してきましたが、名古屋大学では初めての大学院生であり、他のスタッフとともに、しっかり指導していきたいと思っております。臨床・教育・研究は、大学の3本柱であり、そのなかでも、研究は大学が大学であるために譲れない一線です。名古屋大学のような医学系以外の研究レベルが高い大学では、異分野の研究グループとコラボレーションを行うことで、より新規性の高いハイレベルな研究を行い得ます。「異分野との融合」をテーマに、呼吸器外科医として、日々の臨床に基づく「Clinical question」に応えることを目指した研究を推進していきたいと考えております。

最後になりましたが、本年度も、名古屋大学呼吸器外科教室を何卒よろしくお願い申し上げます。